

第4回富山市総合計画審議会 議事録

日時：平成28年8月26日（金）14:00～

場所：富山市役所 8階大会議室

出席者：別紙参照

1. 開会
 2. 市長から高木会長へ諮問書の手交
 3. 市長挨拶
 4. 会長挨拶
 5. 議事
- (1) 第2次富山市総合計画前期基本計画(案)について

会長

- ・ 第2次富山市総合計画前期基本計画(案)につき、ご意見があればお伺いしたい。

委員

- ・ 私自身、細入村の出身で、国の過疎問題懇談会の座長を務めている。富山市は3,000メートル級の山を含む広域合併市であり、山田村や細入村は一部過疎指定を受けている。そうした背景から、中山間地の振興、地域社会をいかに守っていくかという観点について、コミュニティの問題も含め、もう少し踏み込んだ内容にしていただけないか。
- ・ 富山市は県都として、地域をこれからも持続させていく責任のようなものがあると感じている。

委員

- ・ 最近、山間部では鳥獣による被害が多く、人間が追い詰められる状況となっている。様々な対策に取り組んでいるが、獣の方が対策に慣れてしまい、なかなか成果が上がらない。鳥獣による被害を防御するということだけでなく、中山間地の生活を支えるということもポイントとして入れてもらいたい。

委員

- ・ まちなかの病児保育に関しては、富山市民病院から応援の確約をいただいております、医師会でも積極的に取り組んでいく方針である。

委員

- ・ 防災講座を通じた意識啓発に取り組んでいるが、市民の防災意識がまだ低いことを残念に思っている。意識啓発に関する取組は今後も続けていかなければならないと痛感している。「自助・共助・公助」という言葉があるが、「公助」に限界があるから「自

助・共助」に取り組むのではなく、市民自らが率先して「まちを守る」という意識を持つことが重要だと考えている。

委員

- ・ 宮口先生が発言された過疎や中山間地域の問題は、全国的な問題でもある。総合計画においてはもう少し農村に重点を置いて良いのではないか。まちづくりが前面に出ることも分かるが、農村を大事にする視点も必要だと思う。
- ・ 詳細については部会で議論したいところだが、概要版8ページに「(5)活力を創造する人材育成」という項目がある。全国的に農業への新規参入、田園回帰などが話題になる中で、農山村地域への新規参入に焦点を当てた目標指標があっても良いのではないか。
- ・ 「強い農林水産業」の「強い」が何を意味するのかについては考えておく必要がある。薬用植物やエゴマへの注目も良いが、農村全体が強くなるような方策があっても良いのではないか。あまり知られていないが、全県の中で有機農業面積が県下トップである。有機農業に力を入れてきた地域もあるので、そうしたことも含めて「強い農林水産業」を考えていく必要があるのではないか。

委員

- ・ 富山県の産業では人手不足が非常に大きな問題になっている。人手不足を解消するために、子育てがきちんとできる環境やまちを早くつくる必要がある。産業全体を強くするために、「富山市には子育てに良い、若い人をひきつける環境がある」ということをアピールしていくことが喫緊の課題だと思う。

会長

- ・ 市長は盛んに「AMAZING TOYAMA」を掲げているが、今回の計画のどこに入っているのか。富山市のレジリエントシティ、コンパクトシティは世界的にも評価されているが、それらの取組と今回の計画の関係はどうなっているのか。

事務局

- ・ レジリエントシティに関しては、資料の最後にある「前期基本計画（リーディングプロジェクト）」に「都市レジリエンスの推進」を記載している。
- ・ 「AMAZING TOYAMA」については、冊子の190ページ「基本目標Ⅳ 共生社会を実現し誇りを大切に作る協働のまち」「施策(2)シビックプライドの醸成」「施策の方向① 地域の魅力の再発見」の2段落目に記載している。

会長

- ・ 富山県は法政大学の分析結果などで住みやすいまちに選ばれている。若い人が働くことのできる魅力を膨らませていただければと思う。

委員

- ・ 総合計画に記載されている事業内容は大変具体的だと感じた。大変しっかりとつくられているので、提案の余地があるのかどうか不安に思っている。

- ・ 文部科学省では8月30日に初めて学校図書館のガイドラインをまとめる予定となっている。新しい総合計画でもそうした動きを盛り込んでいただきたいと思います、反映することは可能か。

事務局

- ・ 9月に専門部会で個別分野に関して議論させていただく。担当職員も参加するので、その際に提案をいただければと思う。
- ・ また、総合計画に位置づけられなかったからといって市が取り組まないということはない。総合計画は一つの指針であり、総合計画に位置づけられない事業も数多くある。その点についてはご理解いただければと思う。

委員

- ・ 冊子 90 ページの「都市・環境」に関する「目標とする指標」に「救急救命士の養成」が挙げられているが、救急救命士のみならず、医療従事者の養成も必要ではないか。
- ・ 最近、要支援者がデイサービスセンターを利用することが難しくなっているという話を聞いた。今後、要支援者については家庭で支える部分がより大きくなってくると思う。地域が高齢化社会に対応するために、いかに体制をつくっていくかという点が重要だと感じており、そうした点について言葉が不足しているのではないか。
- ・ 概要版 11 ページの「重点テーマ」に「女性の活躍推進」が挙げられているが、支援をしたからといって女性の雇用が確実になるわけではない。雇用者がその女性の家庭を100%理解した上で対応することが重要である。男女共同参画化が進められているが、委員に女性が少ないことも気になっている。今後も富山市として女性の活躍推進を進めていただきたい。

委員

- ・ 「リーディングプロジェクト」には「シビックプライド」を入れなくてよいのか。基本理念に掲げられている4つの要素のうち、「誇り」が抜けているのではないか。「シビックプライド」は取組のベースになる部分でもあり、記載することを検討いただければと思う。

委員

- ・ 数年前から富山駅前で魚を使った観光客向けのPR事業に取り組んできた。様々な人達の協力、富山市の英断もあり、今回駅前開発事業の一環として富山駅前さかな屋撰鮮を開店することができた。当初の予想を大きく上回り、観光客のみならず地元の方にも利用いただくことができています。ホタルイカとシロエビに代表される富山市の水産を市民の方に認識していただくことにつながっており、大変感謝している。店舗は3年間限定での設置だと伺っているが、ある程度の実績を上げることができたおりには営業期間を延長していただければ有難い。

会長

- ・ まだ富山市とJRの調整ができていない。市民や県民の強い要請であり、観光客にも好

評ということであれば、多少場所を移しても継続することになるのではないか。

委員

- ・ 冊子 87 ページの「最大積雪深」に石坂のデータしか掲載されていない。富山市は特別豪雪地帯であるという記述もあるので、もう少し他の地点のデータがあってもよいのではないか。山間部の降雪の多い地域の人達のことはあまり考えていないのではないかという受け止め方をされる恐れがある。

会長

- ・ 富山市には気象台が一つしかないので、こうした書き方になっているのだと思う。
- ・ 富山市のコンパクトシティは世界からも評価されているが、「串と団子」に関する整理があまり明確でない点については今後の課題だと思う。旧町村の計画がどうなっているのかということを見せしていく必要があるのではないか。
- ・ 引き続き、部会で議論を深めていただきたい。

6. 閉会

以上